

Catch the eye 2016年8月

- 2016/8/1 (月) 旅 今日もまた暑い。今日から8月、今が暑さのピーク。夏至からひと月以上過ぎ、日の出時間は5時台に入っているし、雲の様子も、なんとなく、夏の終わりに見せる感じになってきた。7日日曜は立秋。
- 世の中お盆休みも視野に入ってきた。個人的にはあまり関係ないが、気もそぞろなムードもわるくない。この時期になると14年前の信濃での一人旅を思い出す。まじかに山のせまる風景。こういうところで暮らすと、都市には住めないだろうなあ。そう感じた気持ちまでよみがえる。
- 先週金曜、思いがけず小さな旅に出かけたような一日になった。創業塾受講者の開業を祝うのに合わせて、国会図書館関西館に初めて出かけ、けいはんなの一带を電車、バス、車で移動して、まわった。帰り、車の助手席から正面の山あいに見えた紅い夕陽。
- 高炉で煮えたぎった鉄のようだった。見るだけで熱く、夕空の雲を焼いてしまいそうな鮮烈な夕陽だった。その一瞬に、「今日はなんとか一日旅をしたような感じです・・・」と独り言のようにつぶやいた。、運転席の元受講者の方が、「そうですか、それはそれは・・・」。
- 仕事をこえて人の関係がつながり、声をかけあい仲間が集い、そこへ出かけるに合わせて足をのばした国会図書館でいい資料に出会い、しめくくりは目をみはるほどの夏の夕陽、自然の姿。旅のたのしみは出会いという。その出会いがあったから、旅を感じたのかもしれない。
- 2016/8/5 (金) わかったつもり クーラーの効く室内、ブラインドで陽をさえぎっている窓。それでも、窓際の机でキーボードを打っていると、じわっと汗がかく。ブラインド隙間の日差しからでも猛暑ぶりわかる。お盆も近いがこの猛暑はしばらく続くような、明後日は立秋だけど。
- 時々<住む世界>を変えてみる。慣れ親しむ考えや視点、行動様式とは違う場や機会を受け入れてみる、自分から接してみる。するとまた色々と見えてくるものがある。自分の世界観が少し広がり、あらためて気づくことも少なくない。
- 違う世界を知ってみて、今更ながらに自分の住む世界の大切さがわかり、それを大切にしつつ、またひとつ飛躍のきっかけを見つかる。同じ環境に安住しては新しい問題意識も生まれにくい。あえて不慣れをつくることも必要。と、これから世に出る女性たちにハッパをかける。
- これまでたくさんの人に会った。独立して25年、経験則もそれなりに掴んだ。そこで古い諺は今に伝わるだけのものはあるなあと感じ、著名であってもなてくも、自分で事を起こした人の獲得する答えには共通するものがあると見てとる。

そこで再び思うのが、人の出会い。よくぞ出会い今につながっているなあと思う人、人、人。今朝ふと、“自分が外していないのかもしれない・・・”。むこうからやってきたように思う偶然の出会い。それは、あまり意識していないが、自分の方がそう動いているからではないか…。

そういうことも、こういうことも含め、本当に嬉しいもの、年を重ねるといことは。10年に前にわかったつもりになったことが、まだまだわかってなかったとわかり、今わかったつもりなのが、いずれまた、わかっていなかったわかるに違いありません。こういうことが嬉しいと思えて、安上り。

2016/8/6
(土)

再会サロン

昨年1月から2月にかけてあった創業塾。その後の6月に受講メンバーが共同でイベント。それから一年、メンバーの一人が開業したアートサロンで、再会サロン。ケーキが用意されていて感激。



午後1時から始まった再会サロン、大幅になが居して、散会したのは午後6時前。大人な人たちの輪。自由に、率直に、広く、深く、話し合う。これぞ、サロン。いい時間をすごした。



2016/8/10 『絶妙の偶然』
(水)

こんなに猛暑が続いていいのかしら。台風も寄せ付けない。それでも、昨日の夜は風があり、夏の終わりを感じさせた。か細いけど、虫の鳴き声も聞いた。今朝、蝉は遅くに、わずか、短い時間だけ鳴いた。空の雲も秋めく。8月も中旬へ。

『絶妙の偶然』。2008年夏のリーズレター記事のタイトル。ちょうど終わったばかり創業塾について書いたもの。受講者は20数名。そのメンバーの顔ぶれが多彩で、ユニークで、よくぞこういう人たちが集ったと思わせた。そういう現場に出会い、居合わせた感激を書いたのだった。

人生の大きな選択、転機にあたる人たちが集う創業塾。やろうとすることは違っても精神はあい通じる。だからすぐに親しく話すようになる。たぶん、個々人の生活環境では話してもわかってもらえないようなことがわかり合える。

リーズサロンを開いていた20年前でも、率直に話し合える場は少ないと言われた。今はさらに、媒体やツールが妙に進化して、真に語るといふ社会習慣が狭まっているようにみえる。そういう意味でも、共通の目的をもって集う創業塾などは同志に出会い、勇気づけられる場。

自由に、率直に、異論も反論も素直に表し、議論を深める。そういう場を共にして、おのずと深まる関係。そうなれば我も出やすいが、そうならない大人な人たちの和がある。先週土曜、一年ぶりに集いがあった。もっと前から知り合っていたような、そんな気持ちになったのだった。

生きていること自体、絶妙の偶然。否、偶然のようで、自分がそう動いている結果。偶然という結果は次の新しい空間、関係の<起承>。偶然に啞然としているばかりでなく、そこに意味をみつけて、自他ともに働きかけていく。それが人生と社会を彩る。再びまたそう思う昨今。

2016/8/15 八月の<間>
(月)

13日の土曜は久しぶりにフリーだった。この日も朝から暑かった。でも陽をうける木の位置は変わってきた。いつもならラジオをかける朝だが、そういう気分にならなかった。『壊れかけのRadio』が聴きたくなった。たぶん1年ぶりに取り出す二枚組のCD。一枚目をかける。若い声と詩が耳になじんだ。CDは今日も聴いている、事務所へもってきて。

『閉ざした口のその向こうに』。昨日の日経文化面に載った「鷺田清一」の文は『壊れかけのRadio』の延長線上へつなげた。暑さはひとしおなのに、何かしら夏が終わっていく名残惜しさ。夏休みの終わりが刻々を迫り、時間をとりもどしたくなった子供の頃の気分。何者になるのか、まだわからない若さゆえの憂い。この時期、そういう<間>がさす。

今では勝手知ったる気分、心もち、状況設定。それらを我がものにして、未来になった今から遙か遠いはずの過去を見るのだが、その過去はすぐ目の前でこちらに再現して見せる。時間と空間を超えて、過去と現在の自分が出会い、確認し合う、何者になっているか。そういう<間>をもつ八月半ば。野性をさまし、われにかえる時。

2016/8/17 やはり「解散」
(水)

台風7号は東北から北海道へ向かっているが、近畿でも不安定な天気。昨夜から今朝にかけて雨。大阪は太陽が出てきたから、これから相当い蒸し暑くなるはず。ああ、はやく涼しくなっしてほしい。

お盆休みをとらなくても、なんとなく気分は休みモードになっていた。その合間にスマホの速報に「SMAP年末解散」。今朝の日経「春秋」でも取り上げていた。一旦出た「解散」、そうなるだろうなあという感想。

個々人の活動が定着していたから、一人ひとりのの世界を拓きながら、たまに一緒イベントをして、互いの成長を確認するようなSMAPワールドを育ていけそうでもあった。

それぞれに才能豊かで、個性も強いのではないかと思う。年を重ねるごとに自分の中に蓄えるものもの、自分文化というようなものが養われていき、それにつれ、互いのギャップも大きくなる。

そこで大事なのが彼らを支える人の役割なのだが、どうもうまく機能していなかった様子。ギャップは創造の芽にもなる。個性際立つ人たちの違いをうまく生かせば、新しい境地を開いただろうに。

ともあれ解散は決まった。何かをプロデュースするというテーマをもつ身としても、今回の顛末と今後の展開は興味深い。ワイドショー、芸能ニュースでしか情報は出てこないだろうけど、注視。

2016/8/18 『月からのシグナル』
(木)

暑さが少し変わってきた。太陽の位置が傾いてきたせいか。着る服も秋色をどこかにいれてもしっくりくる。やはり光の作用はあなどれない。デパートのディスプレイはすっかり秋。

今夜は初秋の満月。中秋の満月は9月17日、十五夜は15日。今年は新旧で15日が合う。月のことを書くのも、夏の終わりを感じ、秋の始まりを待つ気になっているから？

先日、全然関係ない話題から月の話になった。その場集っていた男性たちは先に帰り、残った女性陣が語り合う。「月のことなんて気にしたことなかった」。そういう若い起業家に勧めたのが『月からのシグナル』。

久しぶりに棚から取り出してみる。発行は1995年8月25日、出版社は筑摩書房、著者は「根本順吉」。発行して早々の頃に、ふらっと入った書店で買った。

事務所を3月に開設して、まだまだ混沌としていた夏の終わりから秋が見え始める頃、ふと、〈われにかえる〉すき間が必要だと感じて、事務所近くの初めて入った書店。今はもうないと思う。

たぶん新刊コーナーにおいてあった。タイトルに誘われて手にとった。気象庁の予報官だった著名な人で、世にたくさんある月関連の本に自分では納得できなかったから書いたと「はじめに」の冒頭で述べている。

それだけあって、広く、いろんな角度から月をみている。それがしっくりきた。けっして難しくなく、でも、ちょっと違う次元で月を見る、暮らしに目をむける、そんな内容。おかげで少し、われにかえたのでした。

2016/8/24 子供との会話
(水)

昨日は処暑、昨夜と今朝は少ししのぎやすかった。ただし今日もどんと気温が上がっている。まだまだ夏服でないとなまらない。だけど真夏色は合わなくなってきた。光がかわってきたせい。

8月も残り一週間。遅めの夏季休暇をとっているのか、地下鉄にファミリーの姿がそこかしこ。今では普通の光景になったが、一緒にいるのに、会話をしていない親子。

本の広告は世相を反映している。仕事の段取り本が出た時には何なんだと思った。最近では、雑談力。実際、雑談がうまくできなくて悩んでいると言う人がいた。

どういうことかと聞いてみると、得意先の担当者と会う場合など、本題に入るまでのプロローグの会話がうまくできないという。そんなこと、天気とか、なんでもいいじゃないかと思うのだけど、それができないと。

今日の新聞の広告には、語彙力。大人になってからの語彙の多さは自分で意識して学びものとして、一般的にはそれほど意識しなくても子供の頃から生活の中で自然に養われていくもの。

2歳半から中学へ上がるまでの時期が一番だと思うが、例えば電車の中で3歳ぐらいの子供をつれた親がずっとスマホをしている生活環境の場合、この子供の会話量は、そうでない子の半分ぐらいではないか。

会話は、相手の語調や表情や、間の取り方など五感も総動員するから、人間の基本的な生活感覚を養うもの。人に目が効かない、危機を察知できない、そういうことまでつながると思うのだけど…。

2016/8/29
(月) 起業家たち

今朝の日の出は朝やけが西の空まで緋に染めていた。空も町の家々も熟した柿のような色。今朝早起きした人は空を二度見したのではないか。異様な感じがした。そのうち曇り空にかわっていった。雨もふりだした。その後ずっと強い雨。

一昨日の土曜、起業家たちが集う研究会に出かけた。ようやく日程が合い、一年ぶりの参加だった。三ヶ月ごとの経営研究会、まずは近況報告から始まる。事の進捗に合わせて、いま感じ、考えていることが話されていく。

それぞれの心境、内面を語り合う。やることは違っても、共通の目的をもつ者同士。率直に意見を言い合える場は貴重。経営に人生に、新しいテーマを見出す人もいて、話を聞きながら、その人の価値観、人生観をかい間知る。

意を決して一つ前途を拓き、進めばいつか何らかの成就をみる。そうすれば、次のテーマを見つけようとするのが人間。それは必ず見付き、取りくめば、遅かれ早かれまた成就する。そういう積み重ねの先に自分で合点のいく未来。我が道を拓く起業家たちが、いぶし銀に輝く。

